

ふいんてっく通信

～ Vol.21 ～

テクノロジーが保険のあり方を変える

Fintechとは、金融(Finance)と技術(Technology)を組み合わせた造語です

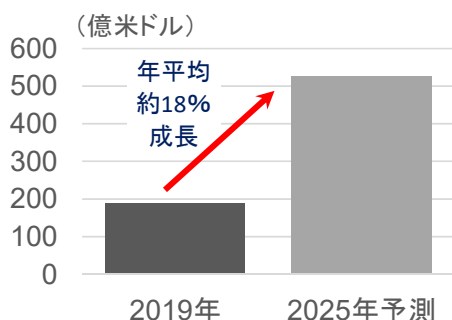
nikko am
fund academy

保険といえば、契約前に保険料が決まり、保険金を請求しても受け取りまで時間がかかることが多々あると思います。そこで最近注目されているのが、デジタル時代の到来とともに登場した、各種データをフル活用した新たな保険です。今回は、自動車保険と災害保険の取り組みを紹介します。

■ 運転者情報を基に保険料をパーソナライズ

自動車保険の保険料は、通常、補償の内容や運転者の年齢、車の利用頻度などを基に決定されますが、急速にデジタル化が進む中、多様なデータを活用したテレマティクス*保険が注目されています。

【世界のテレマティクス保険市場】



アイルランドの調査会社Research and Marketsの調査レポート(2020年1月)を基に日興アセットマネジメントが作成 ※上記は過去のものおよび予測であり、将来を約束するものではありません。

*テレコミュニケーション(Telecommunication、電気通信)とインフォマティクス(Informatics、情報処理)を組み合わせた造語で、移動体に通信システムを組み合わせてリアルタイムに情報サービスを提供すること

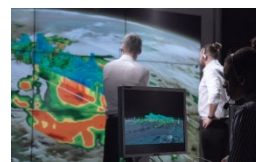
テレマティクス保険は、テレマティクスを利用して、走行距離や運転特性など運転者ごとに情報を取得・分析し、保険料を設定する自動車保険で、日本では2015年にソニー損害保険が最初に販売しました。また、リスクに応じて保険料が設定されることから、安全運転の促進効果や事故の減少効果も期待されるとして、政府も普及を後押ししています。

米国で2004年に世界で初めて販売されるなど、欧米を中心に加入者が増え続けており、2020年～2025年に年平均約18.5%成長するとの予測もあります。

■ 撮影画像とAI分析で保険金支払いを迅速化

ここ数年の自然災害の増加に伴って損害保険料は引き上げられましたが、一方で保険金支払いの迅速化に取り組む動きもあります。具体的には、人口衛星で撮影された画像や気象データ、ドローンの活用、これまでの災害対応を通じて得たデータなどを基にAI(人工知能)で解析し、自然災害で被害を受けたエリアを早期に把握して査定する仕組みです。

通常、査定担当者が現地に出向いて立会調査で支払い対象の有無を判定するため、保険金を支払うまでに数週間かかるのですが、この仕組みを活用すると数日間に短縮できますようです。保険契約者にとって、復旧への一歩を早く踏み出すことが可能になるのです。



※イメージです。

このように、テクノロジーの導入は、適正な保険料の設定や保険金支払いの迅速化を促すことに加え、保険会社の業務効率化やコスト削減をもたらすメリットなどもあるのです。

本文中の銘柄について、売買を推奨するものでも、将来の価格の上昇または下落を示唆するものでもありません。また、当社ファンドにおける保有、非保有、および将来の個別銘柄の組み入れまたは売却を示唆するものでもありません。

■当資料は、日興アセットマネジメントが情報提供を目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解および図表等は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産(外貨建資産には為替変動リスクもあります。)を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書(交付目論見書)をご覧ください。